



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。



タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名				主担当教員	対象年次	学期	曜日・校時	開講期間
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ 科目-A13 世界を知り、日本を知る	20140586022101	●世界を知り、日本を知るⅠ(前近代の日本と世界)	和	E		佐久間 正	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ 科目-A13 世界を知り、日本を知る	20140586022501	●世界を知り、日本を知るⅠ(近現代のアジアと日本)	和	E		COMPEL RADOMIR	1年,2年,3年,4年	後期	火 1	～
2014年度シラバス (教養教育科目)	教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ 科目-A13 世界を知り、日本を知る	20140586022901	●世界を知り、日本を知るⅠ(人々の暮らしから見る現代日本)	和	E		野上 建紀	1年,2年,3年,4年	後期	火 2	～





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A13 世界を知り、日本を知る**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586022101	科目番号	05860221
授業科目名	●世界を知り、日本を知るⅠ(前近代の日本と世界)		
編集担当教員	佐久間 正		
授業担当教員名(科目責任者)	佐久間 正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	佐久間 正		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）	教育・経済・薬・水産		
担当教員Eメールアドレス	sakuma@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	多文化社会学部1号館		
担当教員TEL	095-819-2920		
担当教員オフィスアワー	授業終了後30分		
授業の概要及び位置づけ	本科目は全学モジュール「世界を知り、日本を知る」のⅠに属する科目である。ユーラシア大陸の東辺、太平洋の西辺に位置する島嶼国家日本は、明治時代より 前の前近代においても、アジアをはじめ列島以外の地域と様々な「交流」があり、そうした中で「日本」（本土国家）遅れて琉球王国が形成されていった。その ような交流の様態と、それとの緊張関係の中で形成されていった「日本」（琉球王国）の特質を、国家、社会、経済、文化等の側面から考える。		
授業到達目標	近代と前近代という歴史認識の二分法についての理解を踏まえ、列島に住む人々が二つの国家体験（古代から徳川に至る本土国家と琉球王国）を有したこと、さらに二つの国家の違い（政治、経済、社会、文化）について理解している。さらに、二つの国家の東アジアさらには西洋との関連について簡単な説明ができる。		
授業方法（学習指導法）	教科書は用いず授業内容を記した資料に基づき授業を進め、適宜討論の時間を設ける。したがって、受講生には授業内容の批判的理解が求められる。		
	回	内容	
	1	はじめに 近代と前近代、歴史認識の二分法	
	2	列島の自然環境、文化環境（中華帝国の周辺）、二つの国家体験（本土国家と琉球王国）	
	3	開国と鎖国（1） 遣唐使・遣隋使、日宋貿易、勘合貿易	
	4	開国と鎖国（2） ヨーロッパ船の来航、鎖国、ペリーの来航と開国	
	5	外来文物の衝撃（1） 漢字、仏教、儒教、律令、都城、鉄砲、キリスト教、	
	6	外来文物の衝撃（2） 南蛮文化、蘭学、洋学	
	7	「日本」（本土国家）の成立	

授業内容	8	古代国家の特質 律令制、公地公民制（班田収受）、天皇と身分
	9	武士の登場と武家政権
	10	徳川国家（前期代「日本」最後の国家）の特質（１） 兵農分離と身分制
	11	徳川国家の特質（２） 石高制、鎖国―禁教制
	12	琉球王国の成立 王国前史、第1次尚氏政権、第2次尚氏政権、王国の繁栄
	13	琉球湯王国の特質 島津氏の来寇、「近世琉球」、身分制、文化
	14	徳川国家から明治国家（日本の近代国家）へ（１） 身分制の廃止、職業選択の自由、廃藩置県（中央集権）、徴兵制、地租改正、琉球王国の併合
	15	徳川国家から明治国家へ（２） 大日本帝国憲法、脱亜から興亜へ
	16	定期試験
キーワード	近代・前近代、本土国家、琉球王国、中華帝国、土着・外来・日本化、開国・鎖国	
教科書・教材・参考書	教科書は用いず授業内容を記した資料にそって授業を進める。参考文献等は適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	定期試験70%、授業への参加30%	
受講要件（履修条件）	高校の日本史及び世界史の教養・知識を身に付けていることを受講の前提とする。それらを選択しなかった者は少なくともそれらの教科書を読んでおくこと。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	世界の中で日本を考えてみよう。私たちににとってはごく当たり前のことだと思っていたことが、実はそうではなかったと気づくことは大切です。異文化交流―異文化理解はそこから始まるのです。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A13 世界を知り、日本を知る**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586022501	科目番号	05860225
授業科目名	●世界を知り、日本を知るⅠ(近現代のアジアと日本)		
編集担当教員	COMPEL RADOMIR		
授業担当教員名(科目責任者)	COMPEL RADOMIR		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	COMPEL RADOMIR		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）	教育・経済・薬・水産		
担当教員Eメールアドレス	cmplrad@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL	095-819-2944		
担当教員オフィスアワー	授業終了後（30分）		
授業の概要及び位置づけ	沖縄という地域の特殊性を手がかりに、日本をはじめ東アジアの近現代史の形成をひもとく。アジアにおける国民国家の形成と変容への理解を深め、現代社会の仕組みについて洞察力を鍛える。		
授業到達目標	①沖縄と日本の近現代史、アジアの国際関係における位置づけについての概略を説明できるようになる。 ②身の回りの事象について、その歴史的な背景や社会の仕組みを考えて物事を見るようになる。 ③社会の多様性について、「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことができるようになる。		
授業方法（学習指導法）	授業ではクラスの規模に応じて、講義形式とグループワークを取り入れた演習形式を組み合わせる。全体的な流れを見て、内容を変更する可能性もある。主要文献および先行研究を紹介し、予習、授業中の討論や発表、ミニレポート作成を課す。英語の資料も活用する。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	文献調査及び小プレゼンテーション①	
	3	文献調査及び小プレゼンテーション②	
	4	先史時代および琉球の世界	
	5	近世から明治時代までの沖縄	
	6	大正・昭和期の沖縄	
	7	グループワーク① 沖縄戦の記憶	
	8	沖縄戦	
	9	戦後初期の沖縄	
	10	講和前後の沖縄	
	11	土地問題と復帰運動	
	12		

		「一体化」の時代
	13	グループワーク② 今日の沖縄
	14	返還以後の沖縄
	15	グローバル化時代の地域アイデンティティ
	16	期末試験
キーワード	沖縄、日本近現代史、政治学	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。講義内容に関連した資料を配付する。 参考書となる文献は次の通り： 山本英治『沖縄と日本国家』（東京大学出版会、2004年） 鹿野政直『沖縄の戦後思想を考える』（岩波書店、2011年） 宮里政玄『日米関係と沖縄 1945-1972』（岩波書店、2000年）	
成績評価の方法・基準等	沖縄および日本の近現代史についての基礎理解を確認し、学生が授業中に行った発表、グループワークおよび定期試験によって総合的に判断する。受講生によるアウトプットの比重は次の通りである。 ① 授業への積極的な参加、発表、グループワーク 40％ ② 期末試験 60％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A13 世界を知り、日本を知る**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586022901	科目番号	05860229
授業科目名	●世界を知り、日本を知るⅠ(人々の暮らしから見る現代日本)		
編集担当教員	野上 建紀		
授業担当教員名(科目責任者)	野上 建紀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	野上 建紀		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-3A		
対象学生（クラス等）	教育・経済・薬・水産		
担当教員Eメールアドレス	nogami.takenori@gmail.com		
担当教員研究室			
担当教員TEL	095-819-2919		
担当教員オフィスアワー	火曜日 3限 又はメールによるアポイントメント（nogami.takenori@gmail.com）		
授業の概要及び位置づけ	私たちは「モノ」に囲まれて生活している。そして、「モノ」には個人や家族、社会が反映されている。そのため、「モノ」を観察すれば、その社会背景を知ることができる。授業では、生活に使われた「モノ」の一つである陶磁器の変遷を通して、陶磁器に投影された人々の暮らし（生活、産業）の変化を見ていく。そして、過去がどのように現在につながっているか考える。授業は主に考古学の研究成果をもとに行うが、近世・近現代という比較的新しい時代を対象とする。そのため、考古学以外の歴史学（文献史学）、民俗学、民具学の成果を引用しながら、総合的に「モノ」を見ていくことを心掛ける。		
授業到達目標	①長崎県の地場産業の一つである窯業（陶磁器産業）の歴史と現在について説明できるようになる。 ②身近な生活用品の変化から生活様式の変化を説明できるようになる。③江戸時代の磁器と現代の磁器の技術の違いを説明できるようになる。		
授業方法（学習指導法）	プリントや画像、映像資料、パワーポイント等を利用して、具体的な遺跡やその資料を提示しながら、講義を行う。講義の中で適宜、図や写真を観察しながら 情報を引き出す作業を行う。毎回、授業の理解度を知るためにミニッツペーパーの提出が必要である。予習・復習のために長崎市内の関連遺跡や博物館施設の見学レポート提出を課す。		
	近世・近現代考古学の調査研究成果から、「モノ」を通して過去と現代社会との関わりについて考える。特に長崎の伝統地場産業の一つである窯業（陶磁器産業）について、その成立から変遷をたどり、現代の地場産業にどのようにつながっているか、見ていく。さらに近世・近現代考古学におけるいくつかのテーマを選んで紹介し、他分野（民俗学や民具学）の成果とあわせて近世・近現代考古学の役割を考える。そのため、以下のとおり、授業を構成する。第1回と第2回は、講義目的、内容などのガイダンスとともに、近世・近現代考古学の目的・方法などを紹介する。続いて第3～10回は長崎の伝統地場産業の一つである窯業の変遷を通して、その社会背景を見ていくとともに、近世窯業と現代地場産業の関わりを考える。第11～13回は、近世・近現代考古学のテーマの中から三つのテーマ（器、都市、戦争）を選び、具体的に考察する。第14回は世界遺産を含めた遺跡と暮らしの関わり、第15回は他分野との連携をさぐりながら、近世・近現代考古学の役割についてみていく。最後に講義の総括を行い、加えて講義内容の理解度の確認と今後の講義内容や方法の検討材料のために試験を実施する。		
	回	内容	
	1	近世・近現代考古学入門（講義全体の内容や取り組み方などを説明する。）	

授業内容	2	暮らしと「モノ」（近世・近現代考古学から暮らしの中にあふれる「モノ」の意味を考える。）
	3	近世の産業と社会（1）（長崎県の伝統産業の一つである窯業と社会の関わりについて考える。）
	4	近世の産業と社会（2）（半農半窯、窯業の成立背景を考える。）
	5	近世の産業と社会（3）（地域的な窯業圏の成立、すなわち、地場産業の成立を見る。）
	6	近世の産業と社会（4）（磁器輸入国から輸出国へ転換する社会背景をみる。）
	7	近世の産業と社会（5）（地域的分業化と生産体制の確立を考える。）
	8	近世の産業と社会（6）（磁器の量産化と社会普及の背景をみる。）
	9	近世の産業と社会（7）（生産機構の変容）
	10	近世の産業と社会（8）（産業の近代化と現代地場産業の関わりを考える。）
	11	「器」の変遷（生活用品の一つである「器」を取り上げ、その変遷過程を見る。）
	12	掘り出された「都市」（都市遺跡から近現代の生活を見る。）
	13	「モノ」が語る戦争（戦争の遺産について考える。）
	14	パブリック・アーケオロジー（遺跡と現代社会の関わりを考える。）
	15	「モノ」から見る現代生活（近世・近現代考古学が果たす役割をみる。）
	16	まとめ及び試験（講義の総括と確認のための試験を実施）
キーワード	遺物 近世考古学 近現代考古学 陶磁器 伝統産業 窯業	
教科書・教材・参考書	適宜、プリントを配布し、教科書は使用しない。参考書は授業の進捗に応じて紹介する。	
成績評価の方法・基準等	ミニッツペーパー2点×15回＝30点、レポート・小課題8点×5回＝40点、最終試験30点の計100点	
受講要件（履修条件）	授業内容に関連する長崎市内の施設・遺跡の見学を授業の予復習とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	質問や相談は気軽に研究室へ（ただし、オフィスアワーに）。	

